

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-234337

(43)公開日 平成6年(1994)8月23日

(51)Int.Cl.⁵

B 60 N 2/30

識別記号

序内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 1 FD (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平5-45739

(22)出願日 平成5年(1993)2月9日

(71)出願人 591024993

丸菱工業株式会社

愛知県小牧市大字本庄1251-3

(72)発明者 黒岩 重男

愛知県小牧市大字本庄1251番地の3 丸菱
工業株式会社内

(72)発明者 杉浦 由和

愛知県小牧市大字本庄1251番地の3 丸菱
工業株式会社内

(72)発明者 萩野 義文

愛知県小牧市大字本庄1251番地の3 丸菱
工業株式会社内

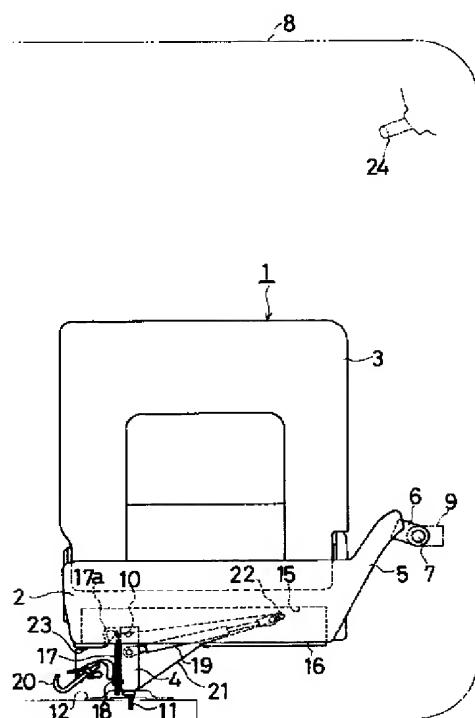
(74)代理人 弁理士 石田 喜樹

(54)【発明の名称】 自動車用座席

(57)【要約】

【目的】 跳ね上げ形態時における座席の見栄えを向上し、使用形態に戻す際の操作を簡単かつ安全にする。

【構成】 不使用時に、後部座席1を折り畳んで側方へ回動して跳ね上げ支持できるように構成する。座部2に脚体4を格納する格納部15を形成する。脚体4をガススプリング19により格納部15から突出する方向へ付勢する。格納部15の開放面にカバー16と蓋板17とを設け、蓋板17を脚体4に止着して開閉可能に構成する。ベルト21を脚体4に結合し、ロッド22で折り返して、先端にフック20を取り付ける。フック20を車体8の掛止部24に掛止して座席1を両脇に保持する際に、ベルト21で脚体4及びガススプリング19を格納部15に格納するとともに、格納部15を蓋板17で閉塞する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 不用時には背当てを折り畳んで片隅へ跳ね上げ支持しておくことにより広い荷台スペースを確保し、使用時には倒して拡開することにより座席として機能させる自動車用座席にあって、座部の裏面に、支持脚を折り畳み自在に設けると共に、その支持脚を引き込み可能な格納部を形成し、拡開操作に連繋して脚体を出し入れする出没機構と、脚体に対して突出方向へ付勢力を与えるガススプリングとを座部内に組み込んだ車輛用座席。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【産業上の利用分野】この発明は、不用時には背当てを折り畳んで片隅へ跳ね上げ支持しておくことにより広い荷台スペースを確保し、使用時には倒して拡開することにより座席として機能させる自動車用座席に関するものである。

【0002】

【従来の技術】前記従来の自動車用座席としては、例えば図5乃至図8に示すような技術が知られている。図5及び図6において、31は車室の後部に装備された座席であり、座部32と、傾動自在な背当て33と、折り畳み可能な脚体34とを備えている。座部32は軸35により車体36に対し回動可能に取り付けられている。そして、不使用時には、背当て33を前方へ倒し、座部32を車体36の両脇へ跳ね上げて起立させ、フック37を車体36の一部に掛止して座席31を保持し、脚部34を折り畳めるようになっている。又図7及び図8において、31は前記従来例と同じく車室の後部に設置された座席であり、軸35により車体36に対し回動可能に取り付けられた座部32と、傾動自在な背当て33と、前記座部32に折り畳み可能に設けた脚体34と車体36とをリンク結合させた支持アーム38とを備えている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の自動車用座席によると、前者は脚体34をいちいち手動にて起立開閉させなければならない面倒があり、起立忘れの虞れも多分にある。後者のものは脚体34を起立開閉操作する必要はないが、座部32の裏側に支持アーム38が露出するため、起立させた座席31の見栄えが悪くなるという不具合があった。そこで、この発明の課題は、起立時における座席31の見栄えを損なうことなく、操作性を向上させることを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するために、この発明は、座部の裏面に、支持脚を折り畳み自在に設けると共に、その支持脚を引き込み可能な格納部を形成し、拡開操作に連係して脚体を出し入れする出没機構と、脚体に対して突出方向へ付勢力を与えるガスス

プリングとを座部に内蔵せしめ、ガススプリングの特性を有効利用して、安全且つ自動的に脚体の格納と起立とを可能に構成する。

【0005】

【作用】上記構成によれば、座席を跳ね上げ操作する際、操作機構によって脚部が自動的に格納部に収容され、脚体を始めとする不必要的部材が一切が座部の外に露出しない。また、座席を使用形態に戻す際には、脚部がガススプリングの緩衝作用と反発力を受けて収容部から自動的にゆっくりと起立するので、このときの操作を簡単かつ安全に行うことができる。

【0006】

【実施例】以下、この発明を具体化した一実施例を図1～図4に基づいて説明する。車室の後部に設置される座席1は座部2と、傾動自在な背当て3と、折り畳み可能な脚体4とを備えている。座部2はアーム部5の外面に突設した軸受6にて軸7を介し車体8のブラケット9に回動可能に取り付けられている。そして、不使用時には、背当て3を前方へ倒し、座部2を車体8の両脇へ跳ね上げて、座席1を起立させておけるように構成されている。

【0007】脚体4は金属板を薄箱状にプレス成形してなり、上端の支軸10により座部2の片側に回動可能に取り付けられている。脚体4には固定片11aと可動片11bとからなる掛止金具11が設けられ、この掛止金具11を床金具12に掛止させることにより、座席1が車体8に固定される。掛止金具11には、可動片11bを開鎖方向へ付勢するバネ(図示略)と、可動片11bを開放操作する帶環13と、床金具12に上方から係合して可動片11bを自動開閉するカム面14とが設けられている。

【0008】座部2の裏面には脚体4を引き込み収容する格納部15が形成され、その開放面はカバー16と蓋板17とで覆われている。蓋板17は格納部15を開閉できるように可撓性のヒンジ部17aを備え、それよりも先の部分は止めピン18により脚体4に止着されている。また、座部2と脚体4との間には、座部2内において脚体4を格納部15から突出する方向へ付勢するガススプリング19が架設されている。

【0009】座席1を起立姿勢で保持するために、フック20がベルト21によって座部2に設けられている。ベルト21は前記止めピン18により脚体4の下部に止着され、収容部15のロッド22により折り返され、蓋板17及びガイド23を通して座部2の端部から取り出され、その先端にフック20が取り付けられている。そして、ベルト21は本実施例の操作機構を構成し、図3に示すように、フック20を車体8の掛止部24に掛止する動作に関連して、脚体4及びガススプリング19を収容部15に収容するとともに、格納部15を蓋板17で閉鎖するようになっている。

【0010】次に、上記のように構成された自動車用座席の作用について説明する。図1及び図2は座席1の使用時の形態を示すもので、蓋板17が格納部15を開閉し、脚体4が格納部15から座部2の下方へ突出し、ガススプリング19は伸長されている。また、掛止金具11が床金具12に掛止められ、ベルト21が座部2の内部に引き込まれ、フック20は座部2の端部に吊下される。

【0011】この状態から座席1を不使用時の形態とするには、まず、背当て3を前方へ倒し、帶環13を引き上げて掛止金具11を床金具12から解離する。次いで、図3に示すように、軸7を支点に座部2を車幅方向において上方へ回動、即ち両脇へ跳ね上げて起立させる。次に、ベルト21を座部2から引き出してフック20を取り出す。すると、ベルト21の移動に伴い、脚体4がガススプリング19を収縮させつつ格納部15側に回動され、これと共に蓋板17が閉鎖方向へ回動される。

【0012】そして、図4に示すように、フック20を掛止部24に掛け止めれば、脚体4及びガススプリング19が格納部15に収容されるとともに、格納部15は蓋板17によって完全に閉鎖される。この跳ね上げ形態では、座部2の外に露出する部分がなく、座部2の表面が平滑となり、座部2の内部も隠蔽されるため、座席1の見栄えを著しく向上させることができる。特に、本実施例では、フック20を取り付けるためのベルト21を利用して脚体4、ガススプリング19、及び蓋板17が自動操作されるから、部品の共通化を図って作機構を簡単に構成できるとともに、偏平なベルト21は荷物の出し入れの邪魔にならず、また、見栄えをよくするために有利な構成となっている。

【0013】一方、座席1を使用形態に戻す際に、フック20を掛け止めると、ガススプリング19が伸長し、脚体4がガススプリング19の緩衝作用を受けて格納部15からゆっくりと自動的に起立し、これに伴い、ベルト21が座部2の内部に引き込まれる。この状態で、座部2を下方へ復帰回動すると、脚体4の掛止金具11がカム面14の作用で開閉されて床金具12に自動的に掛け止められる。したがって、復元時の操作をワンタッチで簡単に、しかも、脚体4の急な飛び出しを防止して安全に行うことができる。

【0014】なお、上記実施例では、本発明が座席1を

車幅方向へ折り畳むタイプの自動車用座席に適用されているが、本発明はこれに限定されるものではなく、後部座席を車体の長手方向において前部座席と重なるように折り畳むタイプの自動車用座席に適用することもできる。また、上記実施例では、操作機構がベルト21によって構成されているが、これにかえ、跳ね上げ時の座席の回動に連動するリンク機構により脚体、ガススプリング、及び蓋板を自動操作するように構成してもよい。この場合、見栄えをよくするために、リンク機構を座部または背当ての内部に埋設する。その他、この発明は上記実施例に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で各部の形状並びに構成を適宜に変更して具体化することも可能である。

【0015】

【発明の効果】以上に詳述したように、本発明によれば、不使用時に跳ね上げ形態とした場合、脚体を始めとする不必要的部材は一切露出しないので、立て掛けた座席の見栄えを向上することができ、また、使用形態に戻す際には、脚体がガススプリングの緩衝作用と反発力を受けて格納部から自動的にゆっくりと起立するので、このときの操作を簡単かつ安全に行うことができるという優れた効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す座席の使用状態における正面図である。

【図2】図1の座席の右側面図である。

【図3】図1の座席を跳ね上げ直前の状態で示す正面図である。

【図4】図1の座席の跳ね上げ形態を示す正面図である。

【図5】従来の座席を使用状態で示す正面図である。

【図6】図5の座席を跳ね上げ状態で示す正面図である。

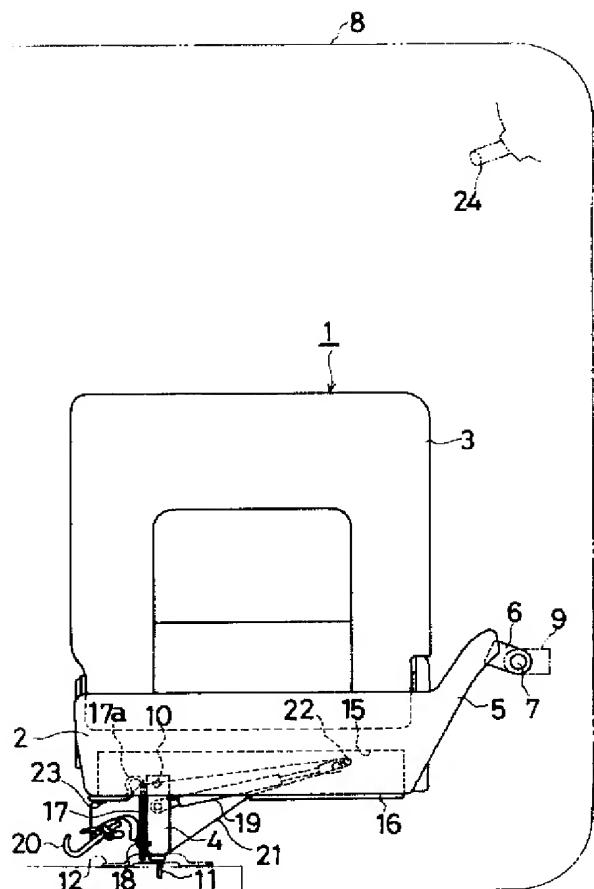
【図7】従来の座席を使用状態で示す正面図である。

【図8】図7の座席を跳ね上げ状態で示す正面図である。

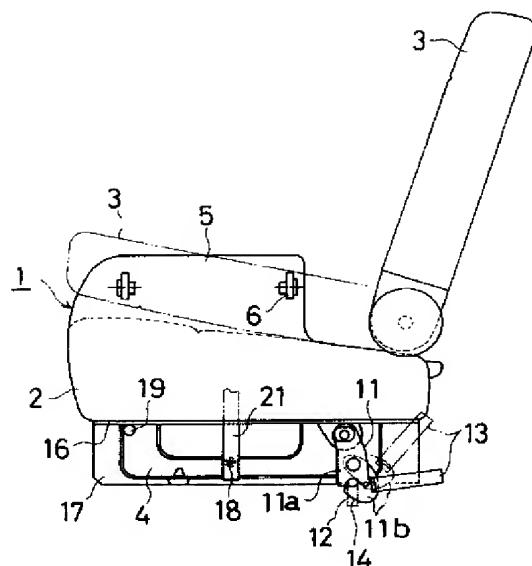
【符号の説明】

1…座席、2…座部、3…背当て、4…脚体、
7…軸、8…車体、11…掛止金具、15…格納部、17…蓋板、19…ガススプリング、20…フック、21…ベルト。

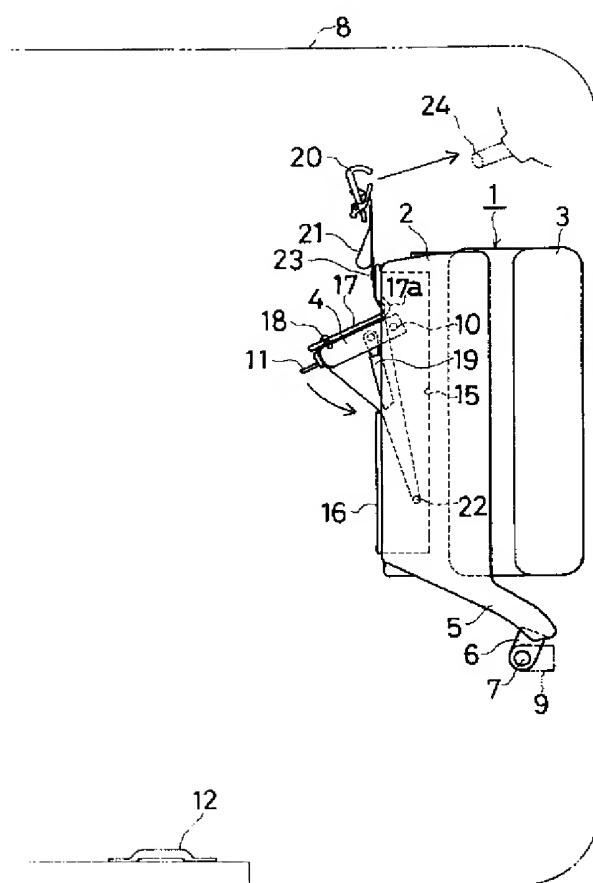
【図1】



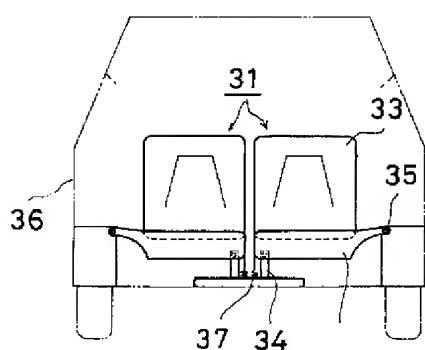
【図2】



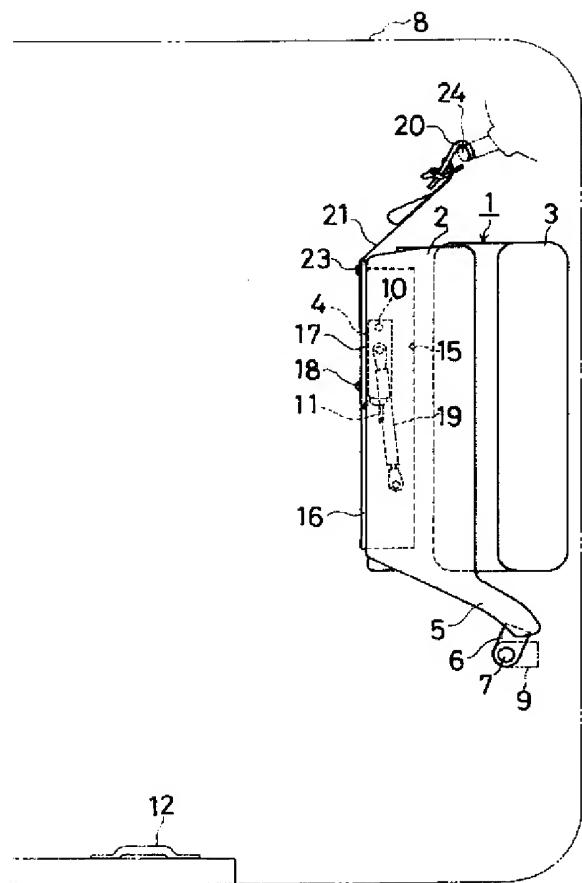
【図3】



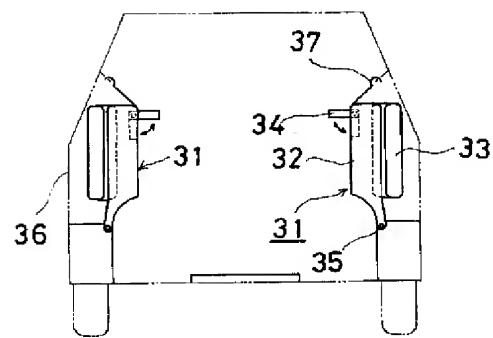
【図5】



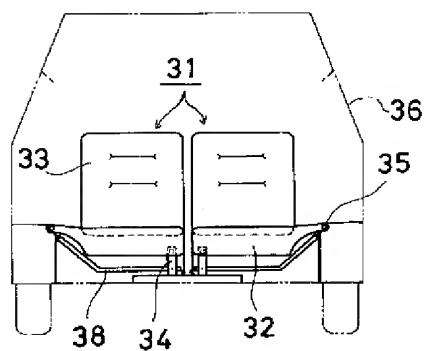
【図4】



【図6】



【図7】



【図8】

